

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドット相立てくてく2

国立市立国立第七小学校

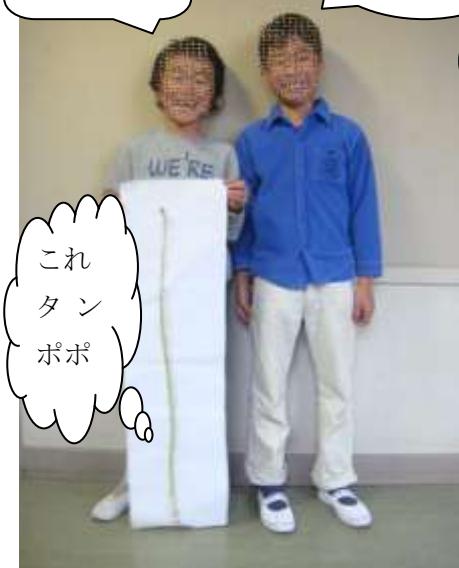
平成26年5月1日 NO.8 (108)

ゲット
したぞ！

すごい
だろう！

とても
長いよ！

82センチも
あるよ！



Sくん 「ねえねえ！みんな見て！」

Sくん 「すごいだろう。これ、ぼくたちがゲットしたんだ。」

Sくん 「とっても、ちよう、長いんだ。」

Sくん 「わかりやすいように、紙にはったんだ。」

Sくん 「つまり、おし花みたいにしたんだ。」

オー君 「なんだろう？植物みたいだけど・・・。」

Sくん 「オー君！よく見て。オー君も国立第七小学校のみんなも、いつもとても
よく見ている植物だよ。黄色いお花だよ。」

Sくん 「上方を、よく見るとわかるよ。」

オー君 「ぎょ！！！これは、もしかして・・・ひょっとして・・・タンポポ？」

Sくん 「ピンポーン。当たり！」

Sくん 「上を見ると、綿毛（わたげ）が飛（と）んだようすがよくわかるよ。」

オー君 「花の茎（くき）がこんなに長くなったのは、初めて見たよ。ところで、
どうしてこんなに長くなるんだっけ？」

花ちゃん 「あらあら、オー君。忘（わす）れちゃったの。去年（きょねん）の『国立

テクテク NO.4』にちゃんと書かれてあるわ。つまり、綿毛を高くした方が、種（たね）をより遠（とお）くへ飛ばせるからなのよ。」

Sくん 「そのとおりだね。ぼくたちね、校長先生と花の茎の長さを定規（じょうぎ）ではかったんだ。」

Sくん 「そしたらね、何と！ 82センチもあったんだ。」

Sくん 「こんなに長いのは、めったにないんだ。」

Sくん 「見つけた時に、うれしくてうれしくて、それで校長先生に見せたんだ。」

Sくん 「ぼくたちは、長いながーいタンポポの花の茎ゲットのチャンピオンなんだ。」

Sくん 「すごいだろう。えっへん！」

オ一君 「よーし！ おいらだって、Sくんたちに負（ま）けないくらいなが——————いものをさがすぞ。」

Sくん 「それでは、みんなでチャンピオンめざしてがんばろう。」

Sくん 「そうだ。そうだ。そうしよう！」

花ちゃん 「でも、ちょっと待って。私、またわかんなくなっちゃった。」

オ一君 「どうしたのさ。花ちゃん。何か気になることがあるの。」

花ちゃん 「あのね。花の茎が長くなるのはわかるけど、どうしてとってもながーいのと、あまり長くないものや、とても短（みじか）いのがあるんだろう。」

モンタ博士 「そうだね。なぜだろう？ と疑問（ぎもん）に思うことが大切だね。どうしてかなと不思議（ふしぎ）に思うことが必要なんだね。」

オ一君 「自然の世界には、ぐうぜんというものはないんですね。」

花ちゃん 「そうね。みんな目には見えないけど、何かきまりがあるのね。」

モンタ博士 「そうだね。目には見えないものでも、じーとよく見て、よく考えて、いろいろと調べることで、そこにきまりがあることを発見していくんだよ。それをね、科学（かがく）というんだ。」

オ一君 「なんだか、ちょっと難（むずか）しいお話になってしまったけど、みんなでいろいろと調べてみようよ。」

Sくん 「そうだ。みんなで力を合わせて、タンポポの『なぞ』を発見するぞ！」